



○本社所在地：北海道河東郡音更町木野西
通7丁目3番地

○事業概要：穀物集荷・卸・製粉
・商社機能

○常時使用する従業員：121名
(2026年3月時点)

○現在の売上高：71億円
(2025年6月期)

○法人番号：9460101001900

○Web：https://www.yamachu-tokachi.co.jp/

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役
山本 英明

「つくる」を「食べる」のもっと近くに

当社（株式会社山本忠信商店）は、北海道十勝・音更町を拠点に、豆類や小麦などの農産物の集荷・精選・製粉等を通じて、生産者と実需者をつないできました。売上高100億円の実現に向け、原点である「産地と消費地をつなぐ機能」をさらに高度化し、十勝産農産物を市場で使いやすい形で届ける体制を強化します。具体的には、当社がこれまで培ってきた集荷・選別・加工・企画提案・販売の機能を一体的に活用し、地域の生産者・地域関係事業者・グループ企業・行政等と連携しながら、十勝産農産物の一次加工機能の実装を進めます。これにより、原料供給にとどまらず、実需者ニーズに対応した付加価値の高い農産物供給体制を構築します。また、地域内の多様な人材が活躍できる就労機会の創出にも取り組み、産地価値の向上と地域課題の解決を両立する持続可能な産業基盤の確立を目指します。

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標

2031年に、売上高100億円達成を目指す

- ・既存の集荷・精選・製粉事業の高度化と生産性向上（AI活用・DX推進）
- ・十勝産農畜産物の利活用拡大による市場拡張
- ・BtoB（業務用）を軸とした全国市場での継続取引先の拡大
- ・冷凍野菜・ペースト等の加工原料分野への本格展開
- ・山本忠信商店主導による農福連携型垂直統合モデルの構築
- ・農福連携を含む多様な地域人材の戦力化による労働力確保

課題

- ・相場や気候変動下での収益基盤の不安定性
- ・小規模加工施設による供給能力不足と機会損失
- ・地方人口減少下での労働力制約
- ・DX・AI活用の全社展開と実装体制強化
- ・食品加工分野における製造ノウハウの体系化
- ・山本忠信商店主導による地域関係事業者及びグループ企業との協働創出

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

① 既存事業の高度化

- ・AI・DX活用による集荷・精選・製粉の生産性向上および業務標準化の推進

② 一次加工拠点を核とした農福連携型垂直統合モデルの確立

- ・地域農産物を活用した冷凍野菜等の一次加工拠点の整備
- ・山本忠信商店を中心とした生産・加工・販売機能の連携強化
- ・多様な地域人材の戦力化による労働力確保

実施体制

① 既存事業の高度化

山本忠信商店ICT推進部が主体となり、外部専門家の支援も活用しながら、グループ各社へのAI・DX導入と業務標準化を推進する。これにより、生産性向上と供給安定性を強化する。

② 一次加工拠点を核とした農福連携型垂直統合モデル

食品加工施設を新設し、原料供給から加工原料販売までを担う拠点を整備する。地域の生産者・加工事業者・関係事業者・グループ企業と連携し、十勝産農産物の高付加価値化を図る。あわせて、商品企画・集荷・販売機能を強化し、生産から加工・販売までの連携強化を推進する。

売上高100億円実現の目標と課題

本事業は、「つくる」を「食べる」のもっと近くにという理念のもと、北海道・十勝の農産物の高付加価値化と持続可能な地域産業基盤の確立を目的とするものです。当社は、契約栽培や直接取引を通じて産地と実需を結び、集荷・精選・製粉・加工・販売を一体で担ってきました。本計画では、2031年に売上高100億円の達成を目指し、既存事業の高度化と一次加工機能の強化を進めます。具体的には、AI・DXの導入による業務標準化と生産性向上を図り、需給最適化と安定供給体制を構築します。また、新たに一次加工拠点を整備し、原料供給から加工原料販売までを担う地域中核機能を確立します。さらに、地域生産者やグループ企業・加工事業者との連携を強化するとともに、農福連携型垂直統合モデルを推進することで、障がい者を含む多様な人材の就労機会創出と地域雇用の安定に貢献します。本事業は、農産物の付加価値向上、生産性向上、包摂的な雇用創出を同時に実現するものであり、地域経済の持続的発展に資する取り組みです。

